

## JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	九州大学
研究科名	「日本を知るためのプログラム」 (九州大学の大学院生が学府にかかわらず参加可能なプログラム)
研究科の特色	九州大学は 1911 に設立以来、人材育成とともに研究に重点を置いてきました。理学、工学等自然科学から、法学、経済学など社会科学や人文学まで幅広い分野の 17 学府（大学院）で、英語による学位課程を提供しています。留学生も積極的に受け入れており、約 2,400 名がアジアを中心に世界各国から入学しています。また、JICA 留学生も 100 名以上受け入れています。
プログラム概要	九州大学の様々な学府で学ぶ JICA 留学生および、国費留学生をはじめとする開発途上国出身の学生が、各学府の学位課程で実施する専門分野の教育・研究に加え、欧米とは異なる「日本の近代の開発経験（科学技術と社会発展の歴史的過程等）」や「戦後の援助実施国（ドナー）としての知見」を学ぶ講義の提供により、体系的に日本の発展の歴史を理解させ、さらに異文化に対する理解を深化させることを目的としています。  また、海外での活動を目指す日本人学生にも提供しており、日本人と外国人学生のクラスシェアを通し活性ある学びを目指しています。
「日本の開発経験に関する講義」の概要	日本を知るためのプログラムは、様々な学府から提供される以下の 10 の授業（各 1~2 単位）から 4 単位以上を履修することを修了要件としています。  「日本学」 受講生が日本の近代化の特徴とその経験をより広い視点から理解できるようになることを目的とします。近現代日本の歴史、文化、社会、開発経験などについて学ぶと同時に、近代日本社会の基礎を形成した前近代日本の歴史、文化、社会、宗教についても総合的に学びます。授業は様々な分野の教員がオムニバス方式で行います。  「近現代日本社会入門」 受講生が明治以降の近現代日本の特質(政治構造、産業発展、地域開発、社会資本整備など)について、より深い視点から理解できる講義を行います。  「法と開発:経済史と経営史の観点から」 国際経済ビジネス法の領域における日本の開発経験についての全体像を概観するため、経済史・経営史の観点を踏まえた講義を行います。  「法と開発:日本の視点と経験」 国際経済ビジネス法の領域における日本の開発経験について、関係する諸分野についての講義を行います。  「農林水産業システム構築の歴史とアジア開発」 日本の農業分野は戦後、新技術の発展だけでなく農業経営方法の変化、流通機構の改良、企業の農業への参入など産業構造の変化が大きくなっています。日本の「社会開発領域（農業経済）」の観点から日本の開発経験と途上国の今後の課題について系統的

	<p>に講義を行います。</p> <p>「アグリバイオ先進技術と国際貢献」      明治以降からの農業の発展を、科学技術的視点から展開する。また、戦後急速に発展しているアグリバイオ技術におけるイノベーションにも言及して系統的に講義と実習を行います。</p> <p>「日本の国土開発及び災害リスク管理」      日本における災害対策（道路、河川、港湾インフラ等の防災対策）と国土開発の関係を学ぶことを通じて、日本の国土開発および産業発展の歴史を俯瞰的に学ぶ。学内の国土開発計画実務従事者経験者による講義を行います。</p> <p>「都市開発プロジェクト論」      日本及び海外の都市開発プロジェクトについて、資金調達などを含む実施のノウハウについて、政府開発援助の活用を含め講義を行います。</p> <p>「実践産業」      （１）プロジェクトマネジメントと技術能力、（２）千代田化工建設による巨大プロジェクト、（３）プロジェクトマネジメントのためのケーススタディの３項目からなる授業を通じて EPC 事業(設計－調達－建設)のプロジェクトマネジメントを学ぶ。</p> <p>「日本の産業構造」      明治から昭和・平成へ向けての日本の産業構造の変化の概略について学ぶ。特にアカデミヤの果たした役割について検討し、現在あるいは将来の産学官連携のあり方について学ぶ。</p>
関連 URL	
プログラムの魅力紹介	